

6. リコーカメラ連携機能

PhotoManager で作成した電子小黒板をリコー社製カメラで利用する方法です。

【連携可能なカメラについて】

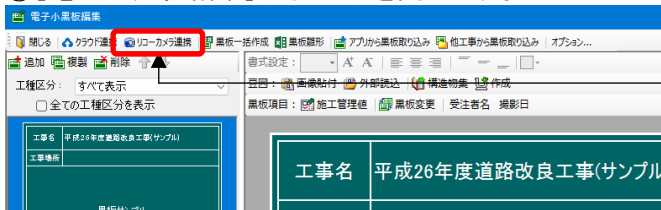
電子小黒板を連携できるリコー社製カメラは【RICOH G900】及び【RICOH G900SE】です。

(2025年10月現在)

対応ファームウェア:	RICOH G900	バージョン 1.06(2023/7/6)
	RICOH G900SE	バージョン 1.06(2023/7/6)
	RICOH G900 II	バージョン 1.00(2024/8/8)
	RICOH G900SE II	バージョン 1.00(2024/8/8)

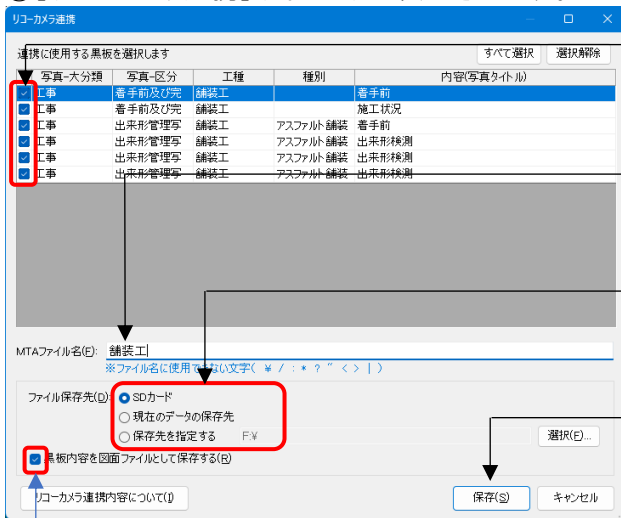
電子小黒板データを SD カードに保存する

① [電子小黒板編集] ウィンドウを開きます。



① ツールバーの [リコーカメラ連携] をクリックします。
黒板の作成方法は、P25「電子黒板の作成・編集」をご参照ください。

② [リコーカメラ連携] ウィンドウが表示されます。



① カメラで使用する黒板にチェックを入れます。

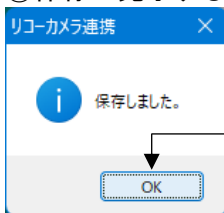
② MTA ファイル名欄にカメラで表示する黒板名を指定します。

③ 黒板データの保存先を指定します。次ページ参照。

④ [黒板内容を図面ファイルとして保存する] に を付けて、[保存] をクリックします。

チェックを外した場合は、リコーカメラ側に表示されない項目や反映しない設定があります。
(→P137「リコーカメラに連携できない項目について」)

③ 保存が完了するとメッセージが表示されます。



① [OK] をクリックします。

④ ファイル保存先 (SD カード) に「BOARD」フォルダと「TEMPLATE」フォルダが作成されます。

【注意事項】

※リコーカメラ側で黒板編集(実測値の入力等)はできません。

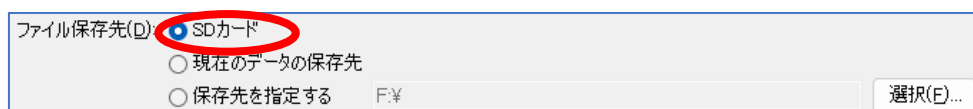
※撮影日は、リコーカメラ側で表示されません。

※縦横比 3:4 以外の黒板は、リコーカメラ側で正しく表示されません。

※黒板の枚数が多い場合、保存時にエラーが表示されることがあります。その際は、複数の MTA ファイルに分けて黒板を保存してください。

【黒板データファイル保存先について】

黒板データは SD カードに保存します。

**・パソコンに SD カードを挿入できる場合**

PC に SD カードをセットし、「SD カード」を選択します。

・直接カメラに保存する場合

SD カードをカメラにセットし、カメラとパソコンをケーブルで接続します。

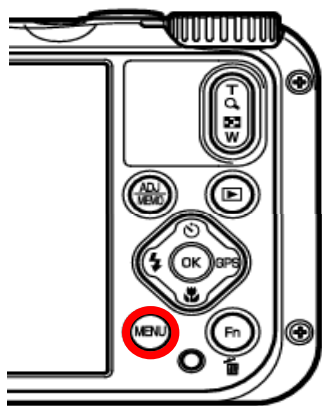
「保存先に指定する」の[選択]ボタンよりカメラデバイスを選択してから「SD カード」を選択します。

リコーカメラで撮影する

黒板情報を保存した SD カードを挿入し、以下の手順で撮影を行います。

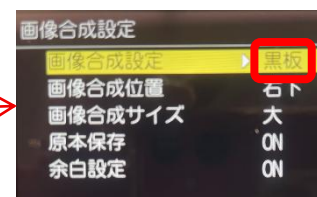
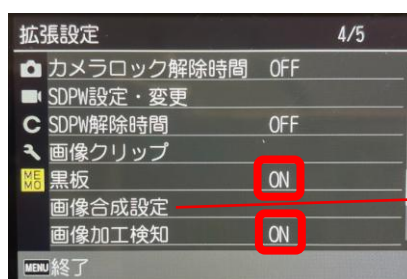
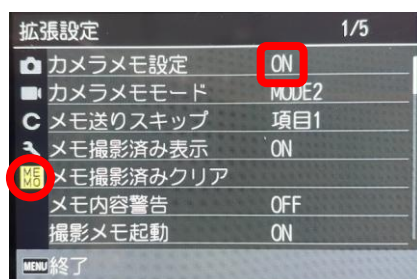
リコーカメラの設定(事前準備)

電子小黒板を使用して撮影する際は、リコーカメラで事前に以下の設定をします。



【MENU】ボタン > [MEMO] (拡張メニュー)

- ・カメラメモ設定 - ON
- ・カメラメモモード - Mode2 (推奨)
- ・黒板 - ON
- ・画像合成設定 - 画像合成設定 - 黒板
- ・画像加工検知 - ON



※以下のモードでは撮影しないでください。PhotoManager 側で改ざん検知機能の対象外となります。

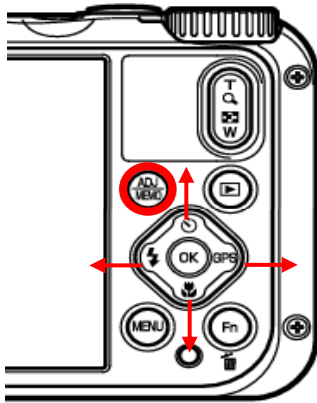
- ・ドライブモードの連続撮影、高速連写、M 連写、S 連写、オートブラケット
- ・ビデオモード
- ・SCN モードの斜め補正

撮影する黒板を選択する

【黒板を切り替える】

電源を入るとカメラメモ(黒板情報)が表示されます。

左右ボタンで黒板を切り替えて黒板を切り替えたら【OK】ボタンします。黒板イメージを確認する場合は【ADJ/MEMO】ボタンを押します。

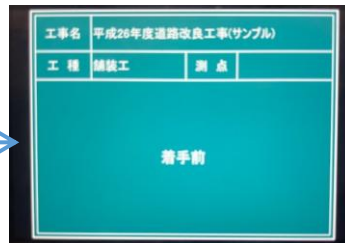
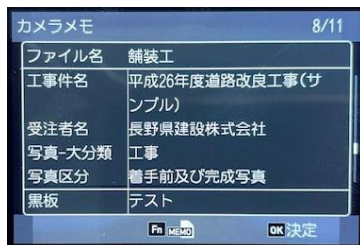


【ADJ/MEMO】ボタン

黒板情報が表示されている状態でボタンを押すと黒板が表示されます。

【↑↓】... 黒板情報のスクロール

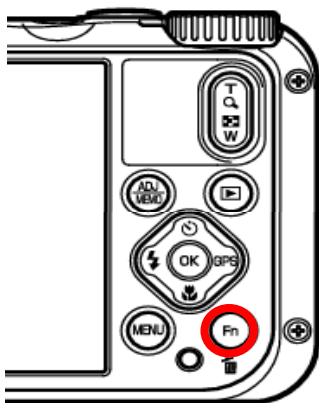
【←→】... 登録した黒板の切り替え



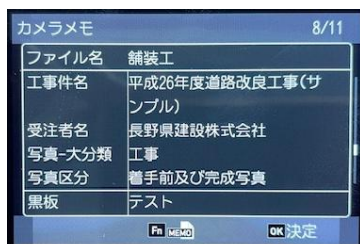
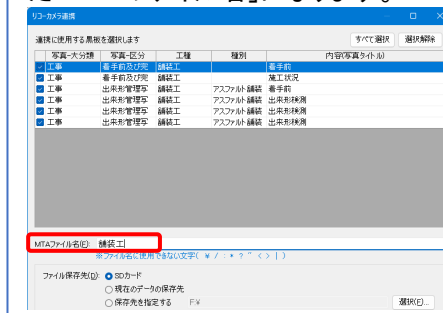
【ファイルリストを切り替える】

カメラメモ(黒板情報)を表示中に【Fn】ボタンを押すと、ファイルリストが表示されます。

リストからファイル名を選択し、【OK】ボタンを押すと、黒板の内容が切り替わります。



ファイルリスト名は、PhotoManager で登録した「.MTA ファイル名」になります。

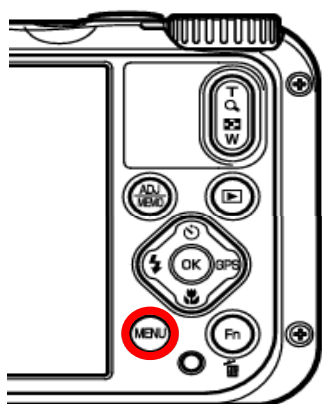


※ファイルリストを選択して「FN」を押すと「黒板リスト画面」に変わります。黒板リストにはファイルリストと同じ名称が表示されます。

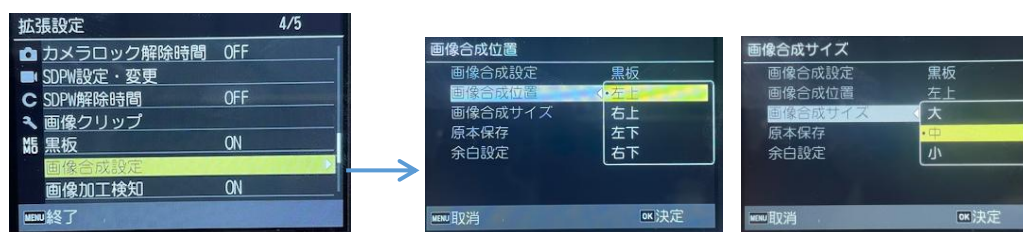
黒板関連の各種設定

【黒板のサイズ位置の調整】

【MENU】ボタン > [MEMO] (拡張メニュー) > 画像合成設定 > にて行います。



画像合成位置 > 右下 右上 左下 左上
画像合成サイズ > 大 中 小



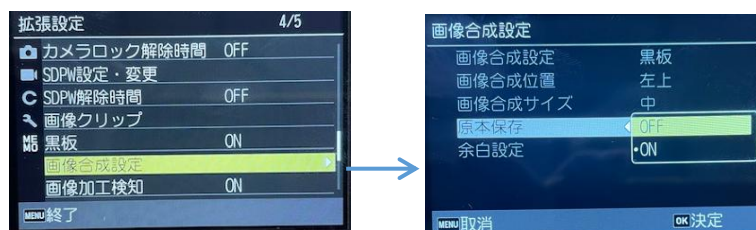
【受注者など表示文字(オレンジ色で印刷される)を消す】

【MENU】ボタン > [MEMO] (拡張メニュー) > カメラメモ入力撮影⇒OFF



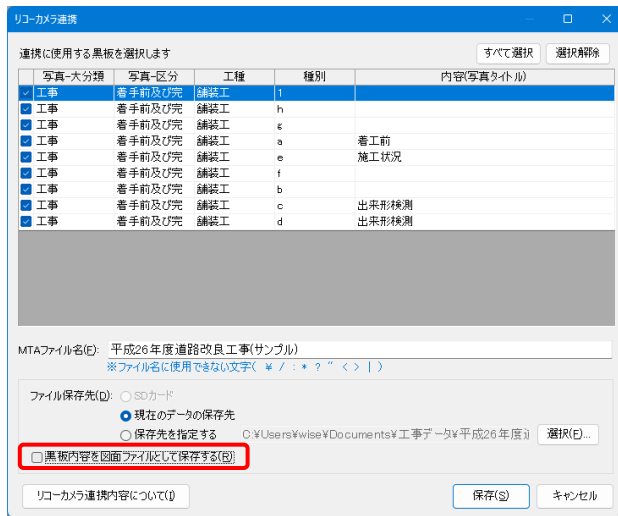
【黒板ありとなし写真が保存される設定を変える】

【MENU】ボタン > [MEMO] (拡張メニュー) > 画像合成設定 > 原本保存⇒OFF にします。



リコーカメラに連携できない項目について

PhotoManager の「リコーカメラ連携」画面にて、「黒板内容を図面ファイルとして保存する」のチェックをはずして保存した場合、リコーカメラ側に表示されない項目や反映しない設定があります。





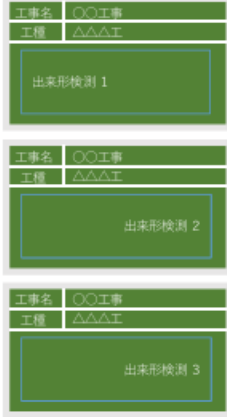
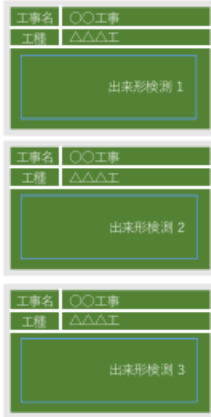

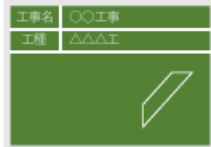

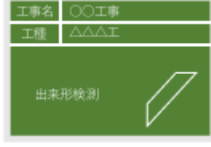



表示されない項目は以下の通りです。

PhotoManager 記載項目		データ	備考
カテゴリ	項目名	連携	
工事情報	工事名称	○	
	工事番号	×	リコーカメラ側では表示されません。
	工事場所	○	
	発注者名	×	リコーカメラ側では表示されません。
	受注者名	○	
	撮影日	×	リコーカメラ側では表示されません。 ※黒板内容を図面ファイルとして保存しても表示されません。
	測点（撮影箇所）	○	
	立会人	○	
工種区分	撮影内容（写真タイトル）	○	
	写真-大分類	○	
	写真-区分	○	
	工種	○	
	種別	○	
	細別	○	
施工管理値	工種区分予備1～5	○	
	設計寸法	△	設計値に値が1つでも入力されていると、設計寸法はリコーカメラ側では表示されません。
	実測寸法	△	実測値に値が1つでも入力されていると、実測寸法はリコーカメラ側では表示されません。
	施工管理値文字	×	リコーカメラ側では表示されません。
	項目名1～10行目	○	
	記号1～10行目	○	
	設計値1～10行目	△	項目名、記号、単位がある場合は、リコーカメラ側では一緒に表示されます。 (例：高さh=1.000m)
	実測値1～10行目	△	項目名、記号、単位がある場合は、リコーカメラ側では一緒に表示されます。 (例：高さh=1.000m)
単位1～10行目	○		

※電子小黑板レイアウト作成の「文字入力」画面にて、「工事情報等と連携する」のチェックを外して入力した「タイトル」は、リコーカメラ側では表示されません。

リコーカメラ側に反映しない設定などは、以下の通りです。

反映しない設定等	例	
	PhotoManager	リコーカメラ
改行はリコーカメラ側に反映しません。		
リコーカメラ側では、PhotoManagerと異なるフォント、フォントサイズで表示されます。		
文字揃え等の書式設定は、リコーカメラ側では、黒板のデザインごとに最も多く使用されている設定が反映されます。	※以下の例では、右揃えが多いため、右揃えが採用されます。	
		
豆図を複数配置した場合、リコーカメラ側では、1枚のみ配置されます。		
写真タイトルと豆図を配置した場合、リコーカメラ側では、必ず横並びになります。		 ※豆図なしの黒板も自動で生成され、リコーカメラ側に表示されます。 
正しく連携できるのは、縦横比が3:4の黒板のみです。 それ以外のサイズの黒板は、余白が背景色で塗りつぶされます。 ※黒板内容を図面ファイルとして保存しても正しく表示されません。	